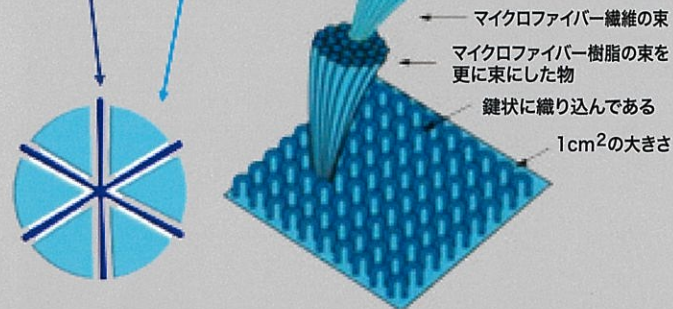


マイクロファイバークロス

2010年にポリッシャー用に開発され、使われ始めた最新テクノロジーを駆使したバフです。数種類のポリエステル繊維とポリアミド樹脂が複合的に配置されており、それぞれの特性である疎水性と親水性の利点を活かした構造となっています。マイクロファイバークロス繊維は非常に小さく、ウール繊維の1/300の太さで、幾重にも織られていますので、ゲルコンパウンドを絡め掴む動きがあるとともに、バフの耐久性を高めています。マイクロファイバークロスは、ダブルアクションポリッシャーの研磨力を高めることができ、更に、ポリウレタンが裏打ちされた3層構造がしっかりしているので、ダブルアクションの動きに追随します。中心穴およびスパイラルスロット(特許)により、温度上昇を抑制しますが、ポリッシング中、表面温度が若干熱を帯びるので、コンパウンドを頻繁に付け足す必要があります。なお、繊細なバフなのでクリーニングも頻繁に行う必要があります。

ポリアミド樹脂
ポリエステル樹脂

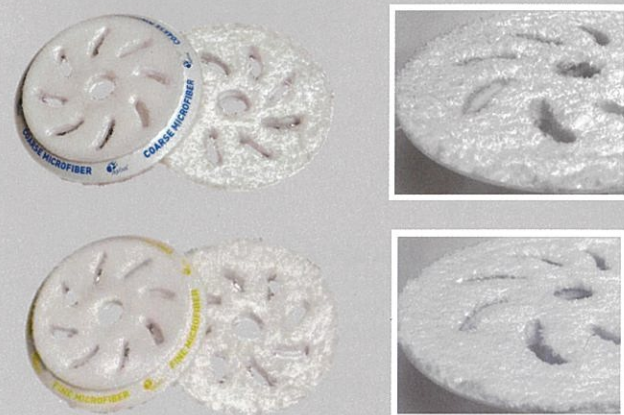


粗目(円周部に青字の記載あり):

しつこいギラつき(オーロラマーク)や酸化膜、深い傷などを取り去るのに適したバフで、細目(DACOARSE)コンパウンドと一緒に使用することで最高の切れ味を発揮し、特にセラミックコートに対しては有効性が高くなっています。スパイラルスロットでポリッシング時の温度上昇を抑えるだけでなく、軽量化が図られています。新車や再塗装された軟らかい塗膜の磨きには向いておりません。

細目(円周部に黄字の記載あり):

毛足が長く、ソフトなマイクロファイバークロスは超微粒子(DAFINE)コンパウンドとともに使用することで、ウレタンバフより容易に、バフ目やギラつき(オーロラマーク)などを取り去ることができます。硬い塗膜やセラミックコートに威力を発揮します。スパイラルスロットでポリッシング時の温度上昇を抑えるだけでなく、軽量化が図られています。新車や再塗装された軟らかい塗膜の磨きには向いておりません。



ウールバフの特徴

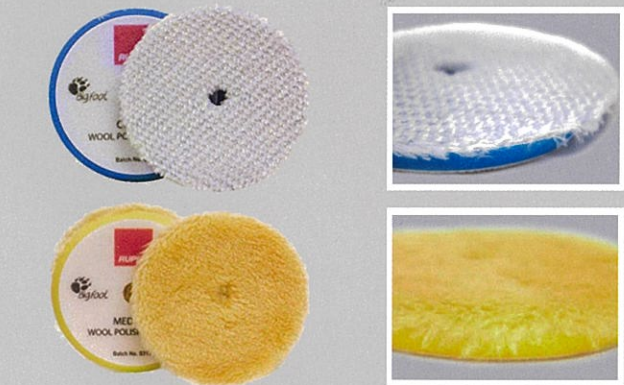
1950年代から、シングル回転ポリッシャーに使われている最も長い歴史のあるバフ素材ですが、高いレベルの磨きの技術が必要でした。多くのウールバフが自然素材の羊毛や獣毛等で作られていますが、人工的なポリエステル繊維のものもあります。人工的な素材のスムーズな表面に比べて、自然素材の繊維は表面に引っかかりがあるので、様々なバフ素材の中では最も研磨力があります。ルペス社ではダブルアクションポリッシャー用に高い技術が必要としない自然素材のウールバフを開発しました。注意すべき点としては、ポリッシング中、塗装面を摩擦熱で加熱させ易いので、ボディが変形したり、クリア層が焼き付かないように注意してください。

粗目:

長さ5mmと8mmのウール繊維を通常の2倍の密度にしたウールバフです。しつこいギラつき(オーロラマーク)や酸化膜、深い傷などを取り去るのに適したウールバフで、細目(DACOARSE)コンパウンドと一緒に使用することで最高の切れ味を発揮します。

中目:

ウール繊維の長さが15mmと長く、ソフトなマイクロファイバークロスは超微粒子(DAFINE)コンパウンドとともに使用することで、バフ目やギラつき(オーロラマーク)などを取り去り仕上げることができます。硬い塗膜やセラミックコートにも威力を発揮します。



マイクロファイバークロス



9.BF9050 (青色1枚) (40x40cm) メタリックフィルム袋入り

9.BF9060 (黄色1枚) (40x40cm)メタリックフィルム袋入り

9.BF9070 (白色1枚) (40x40cm)メタリックフィルム袋入り

ビッグフット・マイクロファイバークロスは乾燥からコンパウンドの残渣の除去までの全ての段階に適した理想的なアイテムです。その特殊な構造とエッジがないことで、ボディ表面を傷を付けずにゴミなどを拭き取ることができます。袋破れによる損傷と紫外線やほこり、湿気による変質を防ぐために1枚ずつメタリックフィルム袋に入れられています。

ビッグフット・マイクロファイバークロスは洗濯・乾燥することで繰り返し使用できます。青色と黄色のマイクロファイバークロスは単層タイプですが、白色のマイクロファイバークロスは最終拭き上げに向いている布地が付いた二層構造になっています。